

あなたが当事者なら

どう考えますか？

第3章 戦後の日本の犯罪情勢

- 1. 安全（客観的な犯罪統計）
- 2. 安心（主観的な体感治安）
- 3. 他国との比較
- 4. 平成前期における犯罪情勢の悪化の要因
- 5. 2003年（平成15年）以降の政府による総合的な犯罪対策
- 6. 他国との比較
- 7. 官民の連携による犯罪の未然防止策の推進
- 8. その他

各章の冒頭で章の内容を紹介

各章の最後にまとめのポイント解説

【本書のポイント】

1 犯罪被害者等支援
2 再犯防止

Column 社会安全政策論と危機管理学

社会安全政策論は危機管理学の中の一分野として論じられることもありますが、両者はどのような関係にあるのでしょうか。

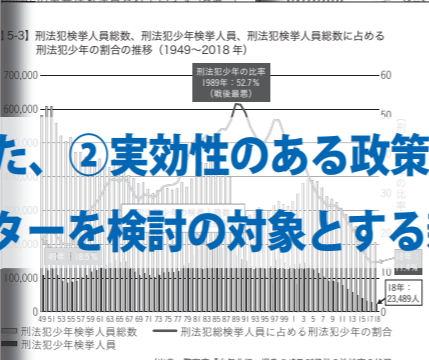
危機管理学の対象である「危機」の定義については様々な見解があり、例えば、「社会に重大な被害を生じさせる事象（青山(2014)、8頁）」「社会システムの基本的制度構造やそれを支える基本的な価値・規範に変革を迫り、極めて不確定性の高い状況と切迫する時間的な中で、将来に向けて何らかの決定が要求されている脅威や事象（谷本(2014)、49頁）等と論じられています。諸説の最大公約数としては、①通常とは違う出来事であること、②大きなダメージをもたらす出来事であること、③①②及び③の結果として通常とは異なる対応が必要な出来事であること、の3要素を指摘することができます。

随所で詳細な知識を解説するコラム

第10章 事例①：大型ショッピングモール内の犯罪対策¹⁾

①国民の視点を中心に据えた、②実効性のある政策を検討するための理論枠組み、③多様なアクターを検討の対象とする新たなアプローチ

前編の私立S大学卒業後の数年間は当時の流行だった11両線の企業に勤めた。しかし、業界の雰囲気にも馴染めず早期退職し、郷里K市の市役所に再就職した。K市役所内では、中途採用ではあったものの持ち前の企画力・調整力で頭角を現し、市役所内の総合調整を担当する総務部企画調整課の課長補佐のポストに抜擢された。現在は、中堅職員ながらも幹部の実質的な知識として活躍するに至っている。



刑罰犯罪人員総数、刑罰犯罪少年検挙人員、刑罰犯罪少年検挙人員に占める刑罰犯罪少年の割合の推移（1949～2018年）

5-3 刑罰犯罪少年の比率

2. S県K市

【概 観】
山田太郎が在住する関東地方S県K市は、同県南東部に位置し、人口11万2千人、面積100平方キロメートル、人口密度は112人/平方キロメートルである。1997年の国勢調査によると、K市は山田太郎が生まれた地である。山田太郎は、1997年にK市に生まれ、2018年にK市を卒業した。

1) 本書はフィクションです。地域の社会、経済状況等の描写に当たっては、埼玉県越谷市の状況を主に参考としました。その他、登場する個人、団体、政策論争をめぐる描写等は現実のものとは無関係です。

本書の知識をゼミ・講義で実際に考えるケース・スタディ

【本書のポイント】

2 再犯防止
3 犯罪予防論

本書の内容

第1部 総論

第1章 社会安全政策論への招待

- 1. 本書の目的：あなたが当事者ならどう考えますか？——振り込め詐欺対策等を例として
- 2. 社会安全政策論の視点
コラム 社会安全政策論と危機管理学
コラム 社会安全政策論とガバナンス研究

第2章 犯罪学の発展の歴史

- 1. 犯罪学とは
- 2. 犯罪原因論
- 3. 犯罪予防論
- 【本章のポイント】
コラム 「割れ窓」理論

犯罪学の概要・歴史、現在の犯罪情勢、社会安全政策論を平易に説明する第1部

第3章 戦後の日本の犯罪情勢

- 1. 安全（客観的な犯罪統計）
- 2. 安心（主観的な体感治安）
- 3. 他国との比較
- 4. 平成前期における犯罪情勢の悪化の要因
- 5. 2003年（平成15年）以降の政府による総合的な犯罪対策
- 【本章のポイント】
自分が当事者であればどう考えるか？ ケース・スタディで実際に議論する第3部

第4章 第1部のまとめ——社会安全政策論とは

- 1. 概要
- 2. 理論形成の背景
- 3. 社会安全政策論の今日的意義
- 4. おわりに
- 【本章のポイント】
少年非行、外国人犯罪、サイバー犯罪、警察制度など具体論を説明する第2部

第2部 各論

第5章 少年の非行、少年の犯罪被害

- 1. はじめに——少年に対する手続き
- 2. 少年による犯罪をめぐる情勢
- 3. 少年の犯罪被害
- 4. 政府による対策
- 5. 様々な課題——あなたが当事者ならどう考えますか？
- 【本章のポイント】

少年非行、外国人犯罪、サイバー犯罪、警察制度など具体論を説明する第2部

第6章 犯罪のグローバル化

- 1. はじめに——犯罪のグローバル化はなぜ問題なのか
- 2. 犯罪のグローバル化の背景
- 3. 犯罪のグローバル化の現状
- 4. 政府による対策
- 5. 様々な課題——あなたが当事者ならどう考えますか？
- 【本章のポイント】
コラム 日本国内での在留外国人の分布

第7章 サイバー犯罪等

- 1. はじめに——背景事情
- 2. サイバー犯罪をめぐる状況
- 3. 政府による対策
- 4. 様々な課題——あなたが当事者ならどう考えますか？
- 【本章のポイント】

第8章 警察制度

- 1. 現代の警察制度の特徴
- 2. 人員規模
- 3. 予算規模
- 4. 捜査権限等
- 5. 警察に対する国民の信頼
- 6. 様々な課題——あなたが当事者ならどう考えますか？
- 【本章のポイント】
コラム 「警察の正統性」理論と「手続的正義」理論

第9章 新たな課題——犯罪被害者等支援、再犯防止

- 1. 犯罪被害者等支援
- 2. 犯罪者の再犯防止
- 【本章のポイント】
コラム 加害者家族等をめぐる問題

第3部 ケース・スタディ

第10章 事例①：大型ショッピングモール内の犯罪対策

- 1. 主人公～山田太郎（K市役所 総務部企画調整課 課長補佐）
- 2. S県K市
- 3. 大型ショッピングセンターの開設
- 4. ショッピングセンター内及び周辺地域における犯罪情勢の悪化
- 5. 犯罪対策をめぐる様々な意見
- 6. 市長からの指示

第11章 事例②：大学のセキュリティ

- 1. 主人公～山本一郎（私立S大学 総務課 主任）
- 2. 私立S大学
- 3. 大学校内での傷害事件の発生
- 4. 事件後の状況
- 5. セキュリティをめぐる様々な意見
- 6. 大学上層部からの指示

第12章 事例③：地元に更生保護施設を受け入れるか？——A県B市甲地区自治会

- 1. 主人公～鈴木太郎（ビジネス・コンサルタント）
- 2. A県B市
- 3. 自立更生促進センターが来る？
- 4. センター受け入れのメリット・デメリット
- 5. 施設の受け入れをめぐる様々な意見
- 6. 父親（自治会長）からの依頼

データに基づいた分析とわかりやすい解説

「社会安全政策論」から、第一線の警察行政に従事してきた著者が犯罪学を案内し、社会安全政策論の考え方をやさしく解き明かす。